

2013年度第2四半期 決算説明(総括)

株式会社 クラレ

2013年度上期実績

[億円]

	今期	前年 同期	増減	8月1日 公表値
売上高	1,993	1,809	+184 (+10.2%)	2,050
営業利益	247	239	+8 (+3.2%)	260
経常利益	249	219	+30 (+13.8%)	255
当期純利益	158	127	+31 (+23.7%)	160

参考

円/ドル	99	79		99
円/ユーロ	130	101		130
国産ナフサ価格 (千円/kl)	65.0	55.0		65.0

2013年度通期業績予想

[億円]

前期実績

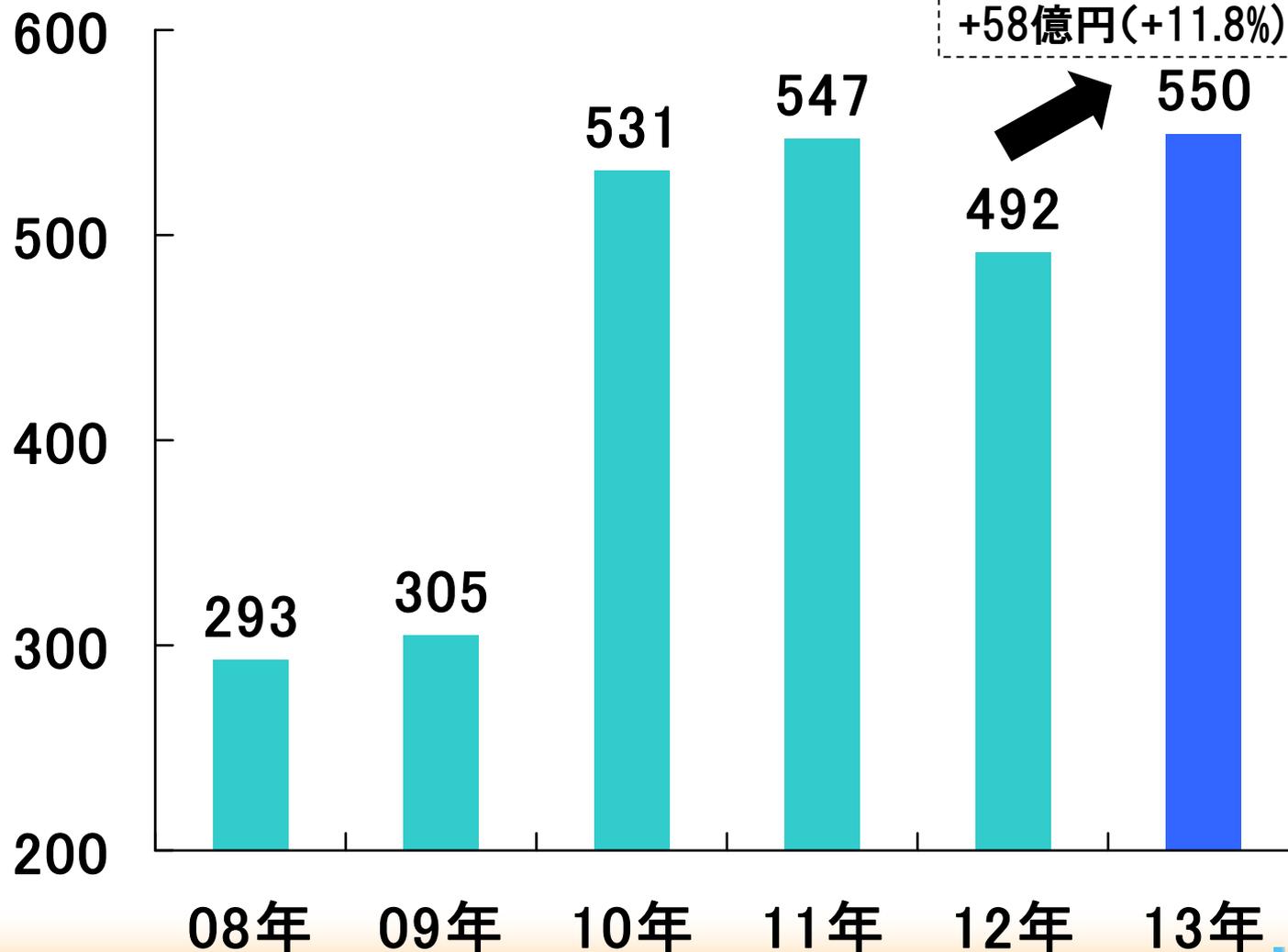
増減

売上高	4,200	3,694	506 (13.7%)
営業利益	550	492	58 (11.8%)
経常利益	535	486	49 (10.1%)
当期純利益	320	288	32 (11.1%)

営業利益推移

過去最高水準の利益

[億円]



主要成長ドライバー

ガスバリア性樹脂 <エバール>

- ◆先進国に加えて新興国市場の拡大、新用途開発の推進
- ◆北米拠点で能力増強(+12,000トン)、さらなる能力増強を推進



水溶性ポパールフィルム

- ◆個包装洗剤用途が急速に拡大、グローバル展開の推進
- ◆タイムリーな能力増強を実施



耐熱性ポリアミド樹脂 <ジェネスタ>

- ◆電子部材、LED部材(バックライト用・一般照明用)、自動車部材の需要拡大
- ◆能力増強投資を実施(+3,000トン)、海外新拠点構想の推進



さらなる成長への布石

技術革新

- ◆ 高速伝送回路向け素材〈ベクスター〉の本格事業化
- ◆ 新規液状ゴム(ファルネセン)の販売開始
- ◆ 中国合弁企業によるアクア事業の拡大
- ◆ ビニロン新プロセス開発推進

外部資源活用

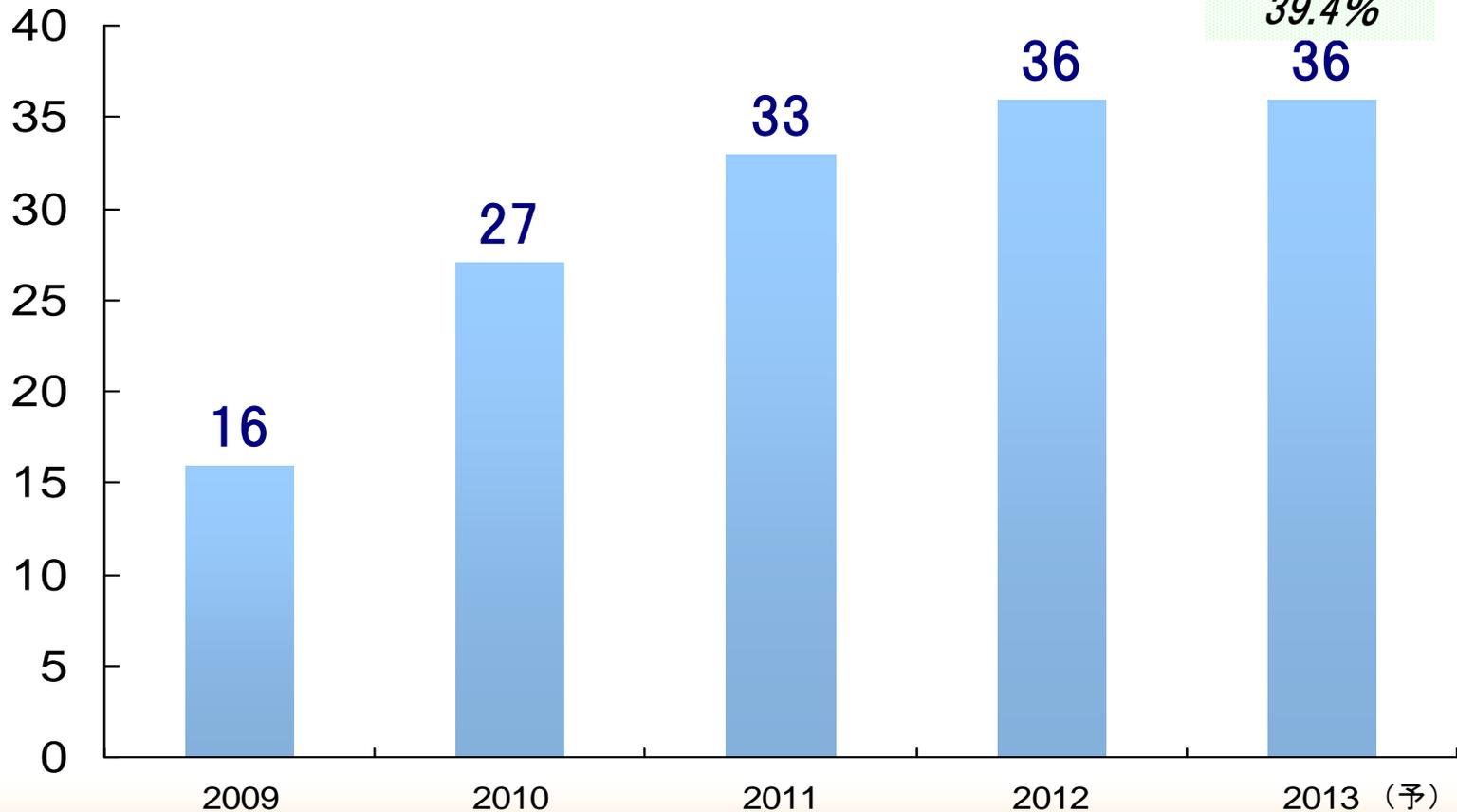
- ◆ ノリタケとの歯科材料事業統合効果発現
- ◆ クレハとのリチウムイオンバッテリー負極材事業拡大
- ◆ 米国Vitriflex社への出資による超防湿フィルム事業化推進
- ◆ M&Aの推進

2013年度配当金について

36円／株予定

(中間;18円、期末;18円)

(配当金:円/株)





2013年度第2四半期決算説明

株式会社 クラレ

セグメント別売上高・営業利益

[億円]

	2013年度上期		2012年度上期		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
ビニルアセテート	901	245	751	244	149	1
イソプレン	254	21	224	10	30	10
機能材料	231	5	219	8	13	▲4
繊維	213	13	225	10	▲12	4
トレーディング	530	17	542	16	▲12	1
その他	305	14	317	22	▲12	▲8
調整額	▲441	▲69	▲469	▲71	28	3
合計	1,993	247	1,809	239	184	8

2013年度上期業績(CFほか)

[億円]

	2013年度上期	2012年度上期	増減	
営業CF	233	248	▲15	
投資CF*	▲259	▲212	▲47	
フリーCF*	▲26	36	▲63	
M&A	-	▲311	311	
1株当り 当期純利益	45円04銭	36円57銭	8円47銭	(+23%)
減価償却費	164	138	26	
研究開発費	84	79	5	

*投資CF、フリーCF:運用資金、M&A関連を除く

2013年度上期主要事業概況

ポバール樹脂	欧米での伸張があるものの、アジアは競合激化の影響を受けた
ポバールフィルム	光学用ポバールフィルムは液晶テレビの需要が伸び悩み、販売量は微増に留まる 水溶性ポバールフィルムは旺盛な需要を背景に順調に拡大
<エバール>	米国、アジアを中心に順調に拡大
イソプレン	液状ゴムの需要は低調に推移したが、ファインケミカルおよび熱可塑性エラストマー<セプトン>は需要が回復
<ジエネスタ>	LED反射板・コネクタ用途、自動車用途ともに好調
メタクリル	市況低迷および原燃料価格上昇の影響を受けた
メディカル	歯科材料の販売が堅調に推移
<クラーノ>	新プロセス品の拡販が遅れ、全体として低調に推移
ビニロン	ブレーキホース用途、アスベスト代替のFRC(繊維補強セメント)用途ともに堅調に推移

貸借対照表①(資産の部)

[億円]

13年9月末

13年3月末

増減

流動資産	2,771	2,572	199
固定資産	3,399	3,300	99
資産合計	6,170	5,873	298

<参考>期末日為替レート

	国内		海外子会社	
	13.9末	13.3末	13.6末	12.12末
円/ドル	98	94	99	87
円/ユーロ	132	121	129	115

貸借対照表②(負債・純資産の部)

[億円]

13年9月末 13年3月末 増減

流動負債	1,020	1,114	▲94
固定負債	820	745	75
負債合計	1,840	1,859	▲19
純資産合計	4,330	4,013	317
負債・純資産合計	6,170	5,873	298

<参考> 期末日為替レート

	国内		海外子会社	
	13.9末	13.3末	13.6末	12.12末
円/ドル	98	94	99	87
円/ユーロ	132	121	129	115

2013年度業績予想

	2013年度 通期予想	2012年度 通期実績	差異
売上高	4,200	3,694	506
営業利益	550	492	58
経常利益	535	486	49
当期純利益	320	288	32
1株当り当期純利益	91円35銭	82円62銭	8円73銭
1株当り配当	36円	36円	—
設備投資(決定ベース)	425	619	▲194
設備投資(受入ベース)	600	455	145
減価償却費	365	310	55
研究開発費	175	164	11

営業利益増減分析

2013年度上期実績

247億円

数量	15
操業度	10
売値、銘柄構成	0
原燃料	▲15
為替	25
償却費	▲26
経費その他	▲1



2012年度上期実績

239億円

原料及び為替

12年度上期実績

13年度上期実績

国産ナフサ／kl	55千円	65千円
ドル(平均)	79 円	99 円
ユーロ(平均)	101 円	130 円

営業利益増減分析

2013年度予想

550億円

数量	40
操業度	30
売値、銘柄構成	10
原燃料	▲20
為替	40
償却費	▲55
経費その他	13



2012年度実績

492億円

原料及び為替

12年度実績

13年度前提

国産ナフサ／kl	57千円	65千円
ドル(平均)	83 円	100 円
ユーロ(平均)	107 円	130 円

【ご参考】 2013年度セグメント別予想

[億円]

	売上高			営業利益		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
ビニルアセテート	901	969	1,870	245	255	500
イソプレン	254	276	530	21	39	60
機能材料	231	269	500	5	15	20
繊維	213	257	470	13	17	30
トレーディング	530	570	1,100	17	18	35
その他	305	365	670	14	16	30
調整額	▲441	▲499	▲940	▲69	▲56	▲125
合計	1,993	2,207	4,200	247	303	550

MonoSol社 水溶性ポバールフィルム事業の拡大

- ・12年6月に米国のポバールフィルムメーカーであるMonoSol社を買収
- ・同社は水溶性フィルムを得意としており、主な用途は、洗剤個包装、農薬・染料等の個包装、ランドリーバッグ、人工大理石離型用



13年6月 生産設備増設を決定、14年7月稼働予定

＜ジェネスタ＞自動車部材向け展開

- ・耐熱性、低吸水性、耐薬品性、ガスバリア性、高摺動性(摩擦に強い)等の特長を生かし、自動車部材に展開
→ 金属代替により車体の軽量化に貢献
- ・燃料系、冷却系、摺動系部品を中心に拡大中



サーモスタット



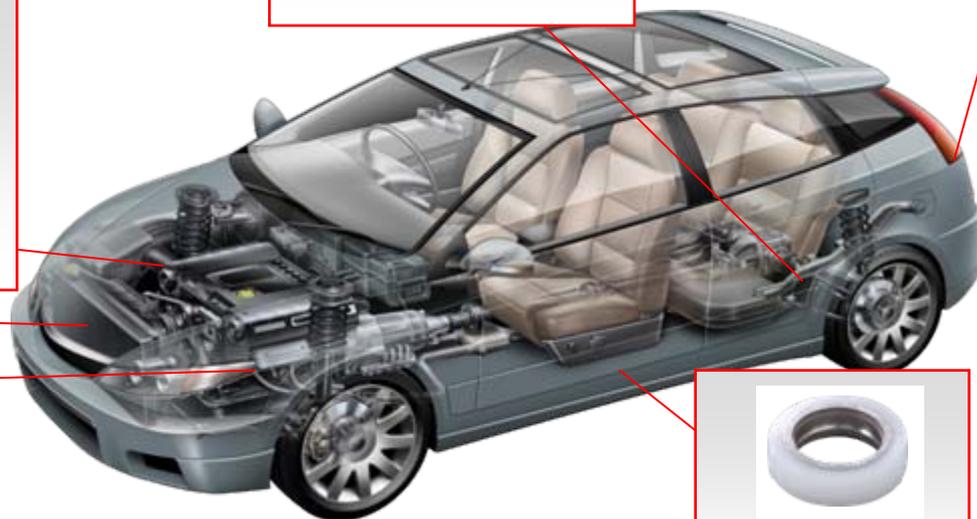
インタークーラータンク



燃料配管



ワイパーモーターギア



ワイヤーハーネス
保護チューブ



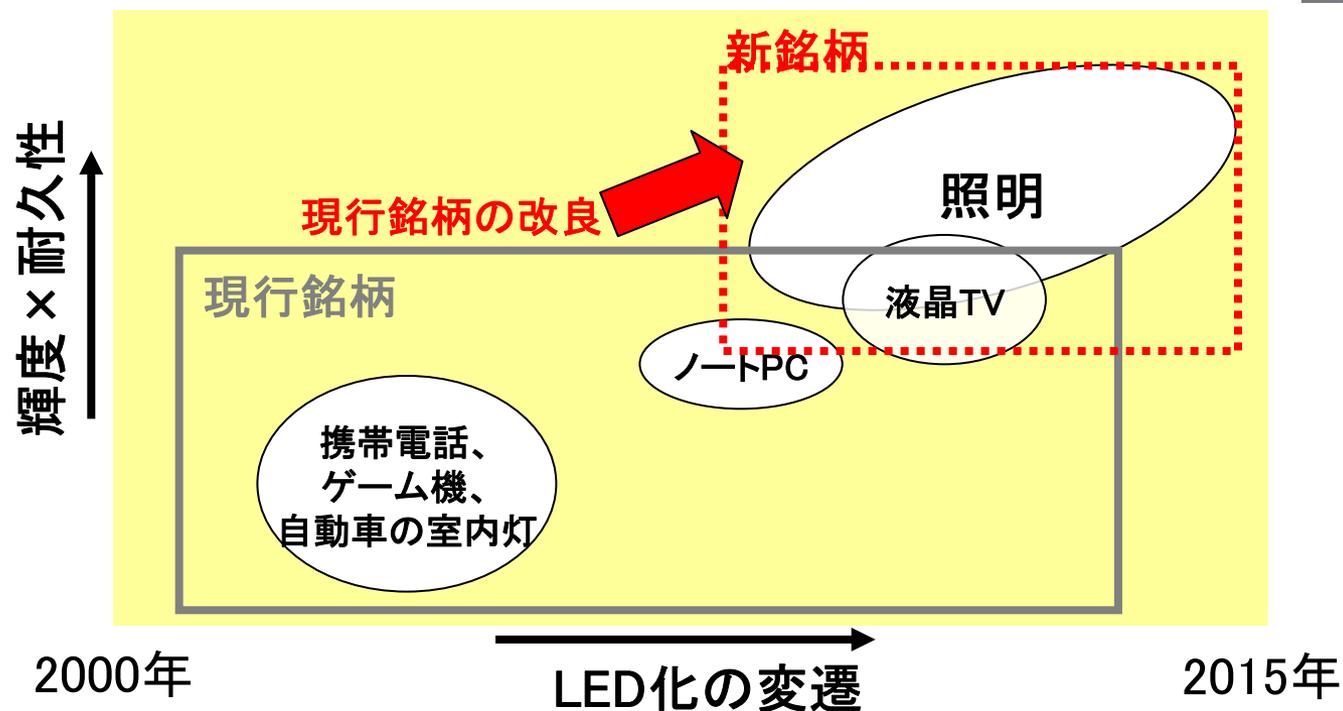
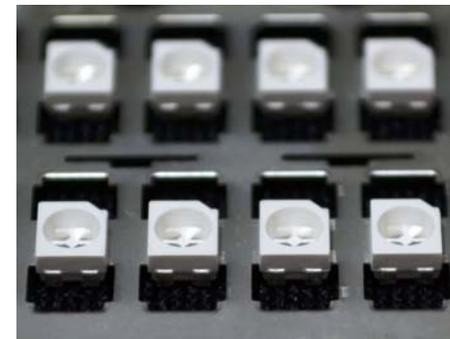
スライドドア用
ローラー

13年8月 生産能力増強(鹿島事業所)

【ご参考】

LED向け<ジェネスタ>新グレード

- ・樹脂組成を変更し、耐光性能向上
- ・既存設備を一部改造し、生産開始(12年度上期～)
- ・13年度より順次市場投入



高速伝送回路向けLCPフィルム＜ベクスター＞

- ・高速伝送特性と薄型化を両立
- ・高性能ノートPC、タブレットPC、スマートフォンでの採用を見込む
- ・大口ユーザーにて回路性能を評価中
- ・銅張積層板メーカー、フレキシブル回路基盤メーカーを中心としたサプライチェーンを拡大中

生産能力増強を決定

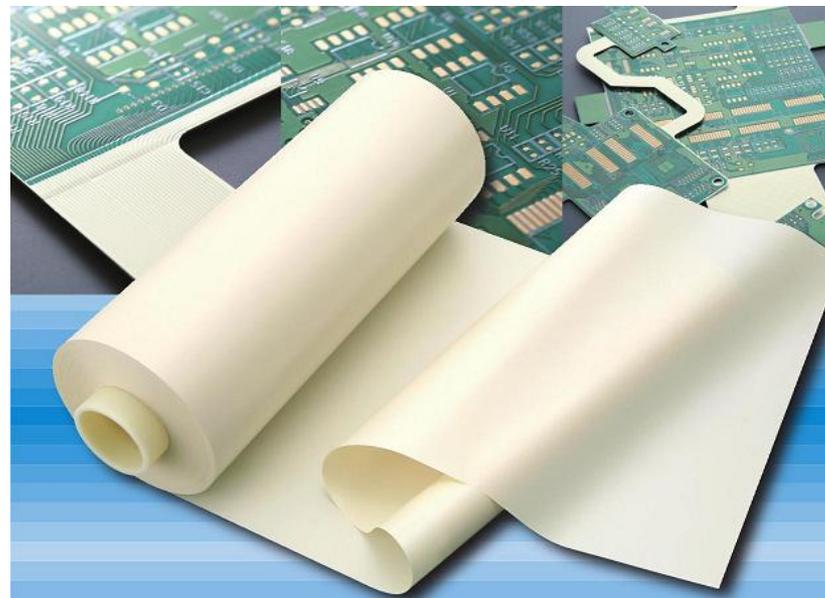
場所：西条事業所

現有能力：40万m²/年産

増強後：100万m²/年産

設備投資額：約5億円

稼働開始：14年4月予定



新規バイオ系原料(ファルネセン)液状ゴム(LFR)

- ・タイヤ用途を中心に液状ゴム事業がここ数年で拡大
- ・イソプレン(LIR)、ブタジエン(LBR)に次ぐ新規モノマー使用による液状ゴム製品のラインアップのためバイオ系原料に着目
- ・米国バイオ系ベンチャー企業(Amyris社)と提携、開発開始
- ・主な用途ターゲットは低燃費タイヤ
- ・ゴムに添加することで自動車タイヤの転がり抵抗を低減、低燃費化が図れる
- ・国内外の主要タイヤメーカー10数社で性能評価を進めている
- ・自動車タイヤを中心に、2015-2016年発売モデルを具体的ターゲットにして実走行試験が進行中
- ・13年度下期からタイヤ試験用販売を開始



防湿フィルム開発のベンチャー企業に戦略的出資

- ・当社は、＜エバール＞、＜クラリスタ＞等のバリア素材を食品包装材や自動車燃料タンク等の用途へ幅広く展開
- ・現在、有機ELや薄膜太陽電池の水蒸気および酸素バリア素材としてガラスが使われているが、将来的にバリアフィルムへの代替ニーズが高まると見られる
- ・Vitriflex社の世界最高レベルのバリア性能を持つ防湿フィルムは、当社のバリア素材に関する技術・知見とのシナジー効果が期待出来る
- ・13年8月、同社への戦略的出資を完了、取締役1名を派遣

未来に化ける新素材。

kuraray

金額表示は億円未満四捨五入にしております。

本資料中の業績予想、見通し及び事業計画についての記載は、将来の事業環境・経済状況等に関する現時点での仮定・推測に基づいています。実際の業績は、これと異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。